



〒892-0841  
鹿兒島市照国町13-42  
カトリック鹿兒島司教区  
電話099 (226) 5100  
振込口座 02030-2-8359  
編集発行 教区広報部  
1部60円年間千共1100円



# 神にそして鹿兒島の土壤に感謝!

## 郡山司教誕生からの十年を振り返る

「それでも、喜び、希望、感謝」をモットーに掲げた郡山健次郎司教誕生から十年が経過した。教区では特別な記念は行わなかったが、これを機会に司教と歩んだ教区の十年を振り返ってみたい。

### 司教叙階の日

前教区長糸永真一司教の引退願いが受理されて、新司教の任命を受けたのが当時、志布志教会の主任司教だった奄美大島は瀬留出身の郡山健次郎神父。この時六十三歳、司教叙階から十三年が経過していた。司教叙階式は鹿兒島純心女子学園体育館で二〇〇六年一月二十九日(日)午後二時から始められた。集まった信者の数は、約千七百人。長崎教区出身の糸永司教がまだ財政基盤を含む教会組織が確立されていなかった鹿兒島教区の基礎作りを奔走したのを引き継ぎ、そのモットーに「それでも



司教叙階のために受けた按手

喜び、希望、感謝」を掲げ、内面豊かな信徒、修道者、司教で構成される教区づくりに取り組む使命を委ねられた形での郡山司教への交代となった。  
**日本人司祭の交流と外国人司祭の誕生**  
庶民派とも言える郡山司教の誕生で変わったのは、信徒、司祭、修道者たちと司教の距離。いつも一緒に汗を流すリーダーとの印象を植え付けた。そんな郡山司教が働きだしてから増加したのは、教区や修道会という垣根を越えた司祭たちの交流(受け入れ)。休暇を鹿兒島教区のために使いたいという司

祭、修道会に収まりきれずに鹿兒島教区で働きたいという司祭が司教のもとを訪ねてきた。  
「教区にある二十九の小教区すべてに司祭を置きたい」と願っていた司教はそんな申し出を受け入れ、現在も修道会を出て教区に転籍した三人の司祭が教区司祭として働き続けている。また糸永司教が推し進めていたベトナムからの教区神学生受け入れについても、その当時、交渉に当たっていた郡山司教はフィリピンで学んでいた彼らの育成と励ましを継続し、司教叙階から数年の間にアン神父、ティエン神父、タム神父、ダウン神父を叙階するに至った。  
またその後は、インターネットを利用して「司祭職への思い」を訴えてきた年齢制限から母国では司祭になれない韓国人を教区神学生として受け入れ、これまでにアントニオ、ドミンゴ、ベネディクトの三司祭を誕生させたほか、現在もフランススコ助祭、ピアンネ神学生を養成している。  
このほか司祭職への願いを持ちながら、会の事情から司祭への道が閉ざされていた修道者も教区神学生として受け入れ、教区司祭と

して叙階するなど、この十年間に十一人の司祭を獲得している。

### 教区を超えた視野

郡山司教の特徴の一つは鹿兒島教区だけでなく、教区外、海外に目を向け続けたことが挙げられる。この基礎になっているのは自身のフィリピンの山村留學経験だろうが、貴島神学生(現聖心教会助任司祭)をサンカルロス神学院(フィリピン)に、そして霧島神学生をローマへと留學させている。

## 奉献生活の年が閉幕

### ザビエル教会で締めくくりのミサ

司祭についても教区司祭の数が不十分であった時期から、その要請にこたえて末吉神父、中野神父を日本カトリック神学院へ出向させている。

一月三十一日(日)午後ザビエル教会で「奉献生活の年閉幕ミサ」がささげられた。  
奉献生活の年は二〇一四年十一月三十日から今年

二月二日までと定められ、教皇フランシスコはこの年を「修道者たちが熱意を持って世の中を自覚めさせる働きをするきっかけにして欲しい」と使徒的書簡で訴えていた。

午後二時から郡山司教と六人の司祭の共同司式でささげられたミサには、五十人余の修道者と四十人ほどの一般信徒が参列し、奉献者だけでなく、すべてのキリスト者が奉献生活の証を

## 3月20日は世界青年の日

一九八四年、「あがないの特別聖年」に、教皇ヨハネ・パウロ二世は大十字架(三・八m)を聖ペトロ大聖堂の祭壇脇に設置しました。そして特別聖年の結びに、それを「王イエスの人類への愛のしるし」として青年たちに託し、キリストこそが救いであることを世界に告げるよう願いました。以来、この十字架は教皇の志を継いだ青年たちの巡礼のシンボルとなり、諸国を旅することになります。  
国連が定めた国際青年年の一九八五年、受難の主日に、青年たちはこの十字架とともに教皇のもとに集まりました。教皇はこの年、受難の主日を毎年「世界青年年」として祝うように定め、二一三年に一度は、世界中の青年が教皇と出会うワールドユースデーが開かれるようになりました。前回は二〇一三年にブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催されました。今年も、ポーランドのクラクフで開催されます。



見直し、その刷新と働きの充実のために祈りをささげた。  
説教した郡山司教は、創世記をイメージした奉献生活の年のロゴを取り上げ、「混沌の中に神は光を与えた。私たちは自分の中にどんな闇を見ても、神の光を求めてそれで照らし、希望を持って進んでいこう」とメッセージを送った。  
ミサの終わりに、教区で働く修道会の紹介があったほか、ミサ後の茶話会で交流がなされた。

せるなどしている。  
出来事から  
「教区に起こる波風を恐れない」との決意から様々な挑戦をしてきた司教であることは間違いない。中でもスペインからの「宣教師族」を受け入れ奄美へ派遣したのは、大きな挑戦だった。受け入れ先の小教区の混乱から、わずかな期間で契約を切るようになったが、国も財産もすべてを捨てて宣教のために邁進しようとする彼らの姿に惹かれた司教らしさの表れだったと言える。  
このほか宣教奉仕者が各地で誕生したほか、インタ

ーネットを活用した宣教を目指す「ネット宣教委員会」の設置、宣教師の受け入れ、祈りのグループを公認するなどの信心業の勧めなど、信徒たちの心の養成を夢見てきた歳月となった。  
司教が語る十年間の思い  
「十年間、私は教区を挙げてという意味では何もしてこなかった。理由は、私自身のタレントの問題で、実際にビジョンを立てて行動するのが苦手だと思いつけられていた。もう一つの理由を挙げるとすれば、司祭時代、小さな教会を担当してきた私には、ノルマとも宿題とも言える教区目標を

掲げられ、その報告を求められることに違和感を感じていたため、展望を持って実践するのを苦手としていたのだと思う。  
ただ十年を回想してみると、最近の出来事だが、一信徒の提案に司祭たちが真剣に取り組みもうとしている姿を見たとき、種を誰がまいたのかは分からないが、鹿兒島という土壤が育ててくれたものを神が見守り続けてくださったということを感じた。そんな恵みに感謝しながら残りわずかとなった期間、司教として働きたいと思う。教区の皆さんに感謝したい」

## 中高生の春の長崎巡礼

3月28日(月)~30日(水)

費用: 15,000円

新中学1年生も参加できます。

問合せ: 泉 浩二神父(鴨池教会)

TEL099 (257) 8097

# 障がいと共に生きる

## 新たな出会いと交流を求めて長崎巡礼

パッションの会 谷山教会信徒 小滝 晋

私たち障がい者の集い「パッションの会」は「いつくしみの特別聖年」に当たり、障害者との新しい出会いと交流を求めて二月六日（土）から七日（日）にかけて長崎巡礼に行っていました。

パッションの会は昨年、北海道の札幌で開かれたカ障連全国大会に参加しました。その時に、長崎教区内で活動している社会福祉法人一粒の麦の会・指定障害福祉サービス「サクラ」の人たちと出会いました。

「ここで出会えたのも何かの縁」と話が盛り上がり、私たちがサクラを訪問し、交流を深めようということになりました。また、二月七日（日）は日本二十六聖人殉教記念ミサが行われる予定で、ミサにも参加するという話で計画を立てました。参加者は、障がい者五人を含む計十一人でした。

最初に訪問したのは、サクラの皆さんの施設でした。訪問する前は「元気にしているかな？」「喜んでくれるだろうか？」と会える嬉しさと不安がありました。ところが、昨年の大会で私たちが会ったことを喜び、歓迎してくれました。私も大会以来の再会でも嬉しかったです。

皆さんの雰囲気は明るく、自分の障がいと向き合いつつ、やりたいことを実現するため少しでも自分でできることを見つけて実践している姿に感銘を受けました。そして佐々の教会で主任司祭の小瀬良神父様

「被爆のマリア」に祈りをささげて爆心地や平和公園、大浦、浦上、田平教会などを巡り、歴史を振り返りながら改めて平和の大切さを強く感じました。

そして、午後から西坂公園で日本二十六聖人殉教記念ミサが開かれ、会場には多くの人が参加していました。障がい者の座席も確保してあり「ミサに手話が使われている」、このことが私たちが参加しようと思つた理由です。そして、障がい者の方が安心してミサにあずかる姿を見て、手話が

「被爆のマリア」に祈りをささげて爆心地や平和公園、大浦、浦上、田平教会などを巡り、歴史を振り返りながら改めて平和の大切さを強く感じました。

そして、午後から西坂公園で日本二十六聖人殉教記念ミサが開かれ、会場には多くの人が参加していました。障がい者の座席も確保してあり「ミサに手話が使われている」、このことが私たちが参加しようと思つた理由です。そして、障がい者の方が安心してミサにあずかる姿を見て、手話が

## 世界聖体大会に参加して

紫原教会 平 志津子

日本からの巡礼団 第五十一回世界聖体大会（二月二十四日～二十一日）がセブ島で開催され、私は日本公式巡礼団の一人として一月二十八日からセブ島を訪れました。私の加わったグループ（聖体大会Bコース六日間）は、司教様がお二人、神父様が四人、シスターが二人、信徒が二十五人の計三十三人でした。

世界は一つを実感 二十八日には、まずタグレ枢機卿のお話を聞くこと

「聖体は主の食卓。主がお招きくださった食卓には、知らない人がいる。他人と食卓を共にする覚悟が必要」とおっしゃいました。これは違う文化を受け入れる対話をするための必要性を訴えられたのだと感じました。

また東日本大震災の証言者として大船渡教会の菅原圭一さんが英語のスピーチをされました。菅原さんは、スクリーンに映し出された震災の様子を、そして震災後の教会の様子を話されました。その中で、教会におられたフィリピンの方々がお互いに助け合う姿、そしてフィリピンの方々の明るい笑顔で教会自体に活気が戻ってきたことなどを話されるとスクリーンには私たちが日本からの巡礼団が映し出され、会場から大きな拍手がわき起こり驚いてしまいました。

その後セブ島市内を巡礼した私たちは、夕食後再び



「被爆のマリア」に祈りをささげて爆心地や平和公園、大浦、浦上、田平教会などを巡り、歴史を振り返りながら改めて平和の大切さを強く感じました。

そして、午後から西坂公園で日本二十六聖人殉教記念ミサが開かれ、会場には多くの人が参加していました。障がい者の座席も確保してあり「ミサに手話が使われている」、このことが私たちが参加しようと思つた理由です。そして、障がい者の方が安心してミサにあずかる姿を見て、手話が

「被爆のマリア」に祈りをささげて爆心地や平和公園、大浦、浦上、田平教会などを巡り、歴史を振り返りながら改めて平和の大切さを強く感じました。

そして、午後から西坂公園で日本二十六聖人殉教記念ミサが開かれ、会場には多くの人が参加していました。障がい者の座席も確保してあり「ミサに手話が使われている」、このことが私たちが参加しようと思つた理由です。そして、障がい者の方が安心してミサにあずかる姿を見て、手話が



### 会と催し (3月)

- 2日（水）主任司祭会議・教区本部・15時
- 4日（金）主にささげる二十四時間・ザビエル教会・9時～5日9時
- 6日（日）四旬節第四主日
- 13日（日）四旬節第五主日
- 15日（火）教区巡礼委員会・教区本部・19時
- 17日（木）日本の信徒発見の聖母
- 19日（土）田原章神父叙階記念（一九五三年）
- 20日（日）聖ヨセフ
- 20日（日）諏訪神学生司祭助祭候補者認定式・ザビエル教会・15時
- 20日（日）ユークヤット勉強会・教区本部・15時
- 20日（日）ゼローム神父命日（二〇〇三年）
- 20日（日）大野和夫神父、牧山田一神父、ムイベルガ神父、栃尾泰英神父、タム神父霊名
- 20日（日）成相明人神父叙階記念（一九六七年）
- 20日（日）受難の主日（枝の主日）
- 20日（日）世界青年の日
- 20日（日）郡山健次郎司教司祭叙階記念（一九七二年）
- 20日（日）永山幸弘神父叙階記念（一九六八年）
- 20日（日）寝占敦之神父叙階記念（一九八三年）
- 20日（日）鄭法鐘神父叙階記念（二〇一三年）
- 20日（日）宋診旭神父叙階記念（二〇一三年）
- 21日（月）美島春雄神父叙階記念（一九六七年）
- 21日（月）小隈憲士神父叙階記念（一九八八年）
- 21日（月）大松正弘神父叙階記念（一九八七年）
- 21日（月）頭島光神父叙階記念（一九八七年）
- 21日（月）末吉卓也神父叙階記念（二〇〇三年）
- 23日（水）聖香油ミサ・ザビエル教会・10時
- 24日（木）聖木曜日（主の晩さん）
- 24日（木）山口好信神父叙階記念（一九九一年）
- 25日（金）聖金曜日（主の受難、大斎・小斎）
- 25日（金）聖地のための献金
- 25日（金）泉浩二神父叙階記念（一九九三年）
- 26日（土）聖土曜日
- 26日（土）復活の主日
- 27日（日）オリープの会・教区本部・14時
- 28日（月）コンタリニ神父命日（一九九八年）
- 28日（月）島田喜藏神父命日（一九四八年）
- 28日（月）田邊徹神父叙階記念（一九五一年）
- 28日（月）中高生の長崎巡礼・30日
- 29日（火）明松尊吉神父命日（一九九二年）
- 29日（火）内野洋平神父叙階記念（二〇〇三年）
- 31日（木）河野純徳神父命日（一九八九年）

### 祈りの意向

【ノベナ】東日本大震災の被災者（7日～16日）

【祈祷の使徒念】世界共通・困難な状況にある家庭

宣 教・迫害されるキリスト者

日本の教会・被災者との連帯

# 国分教会に待望の新聖堂

## 感謝の心に満たされ二月十一日献堂

二月十一日(木)に国分教会(サンタマリア神父)の献堂式を郡山健次郎司教様の司式で執り行って頂きました。

当日は、それまでの寒さとは違って暖かい日となりました。午後一時に大阪、



京都、福岡、宮崎、徳之島など県内外から約二百三十人の参列者による入祭の歌声が教会堂に響きわたる中、二十五人の司祭団が入堂され献堂式のミサが始まりました。

郡山司教様の説教では、「教会の建物は完成したが、信徒一人ひとりが教会であり、キリストが揺るがない土台だということを確認して、共同体をつくって下さい」と励まされました。そして諸聖人の連願後、祭壇と教会堂の壁への塗油で聖堂が祝別され献堂式ミサを終えました。

ミサに引き続き記念式典が行われ、ザベリオ宣教会管区長コデノッティ・クラウディオ神父をはじめ教会堂建

設に携わられた方々へ感謝の贈呈、そして来賓の霧島市長前田終止様から、教会堂への賛辞と、隣接するカトリック国分幼稚園に対し、未来を担う子供達の教育の場としてとて期待を寄せられているとの祝辞を頂きました。

式典の後、場所を幼稚園

### 一月の司祭評議会

一月二十七日(水)午後、教区本部で司祭評議会が開かれた。議題は以下の通り。

- ① 教区評議会
- ② 「学び」の講座の実施
- ③ 「司祭のための聖年」(六月三日)の過ごし方
- ④ 六月に鹿児島で顕示される聖遺物の安置場所と企画
- ⑤ ワールド・ユース・デー参加の促進

の園庭に移し、国分教会の信徒でフランス人シェフ夫妻の手作りによる軽食の祝賀会を開宴しました。ほか陽気の中、志布志教会の皆さんによるオカリナ演奏と各小教区の皆さんの紹介などがあり、和やかな雰囲気での談笑のうちにあっという間に時間が過ぎてしまいました。

この度の教会新築にあたっては多くの方々のご支援を頂きましたが、その一つに志布志教会の鎌田様と芝原様による教会の伝統的形をした手作りの素朴な木製の椅子は、木造聖堂の祈りの場にふさわしく、より一層落ち着きのある温もりの漂う雰囲気をももたらして下さっています。当日はお忙しい中、遠路はるばる国分の地までお越し下さった司教様と神父様方、そして多くの皆様からお祝い頂きましたことに信徒一同心から感謝申し上げ、これを機に教会堂だけでなく心も刷新して、神様のみ旨を果たすべく、地域に根ざした信仰あるキリスト者として生きていきたいと思っております。

(国分教会 植村昌子)

### 九月に鹿児島で NWMを開催

全国組織のカトリック青年連絡協議会は、カトリック青年の情報交換と交流のためネットワークミーティング(NWM)を年二回行っている。今年は、二月の松山市に続いて、九月二十四日から二日間、鹿児島でも開かれることになった。

### 鹿児島で錬成会

#### 正義と平和協議会

二月六日(土)、七日(日)教区本部で「正義と平和協議会」主催の錬成会があった。参加したのは十六人で、鹿児島市内からだ

テーマは「(心)つくいきやんせ(467)」場所が国民宿舎レインボー桜島。参加人数は百人で、教区青年会(岩崎信幸会長・谷山教会)は準備・実施のためにスタッフを募集している。

青年会は、毎月一回、教区本部で行われており、興味のある青年の参加は大歓迎。問い合わせは教区本部まで。

講師は林尚史神父(イエズス会)で、テーマは「福音ってなんだ これだ!」。林神父は、現場でもった多くの人の心のかかわりをもとに、沖繩、原発、在日外国人などの問題を聖書から解説し、今の現実と向き合うことの大切さを訴えまた動かなければ風は吹かないと強調した。(出席者の感想は来月号に掲載)

### 文芸

#### 短歌

鹿児島純心 川上 和  
金沢の古寺庭園にひっそりと右近の灯籠聖母子刻めり

鴨池教会 前田 儀子  
くぐみ鳴く鳩に呼ばれて目ざめたりミサに行かねばと起き立つ朝  
こめかみのうづく夜の更けおもひ出づ四十年前の夫の終息

始良教会 川口 節子  
つぐのいの十字架担う終活にいつくしみの主共に居まして

溝辺教会 松元 史江  
出水田に無心に遊ぶ鶴の群れ有馬神父さまと娘と共に見き  
遠き日の思い出となり神父さまの御心今も

#### 俳句

鹿児島純心 川上 和  
西坂の吹雪く如月殉教の朝  
受難節メシアは示す赦しの道を

吉野教会 徳永ノブ子  
大雪に萎れる木々に復活あれと  
初花の梅の匂ひにうっとり

国分教会 政 ノブ子  
司教様迎えて祝う梅真白  
献堂式オカリナ響き春日和  
ふる里の司祭懐かし寒桜

### 主任司祭会で検討

#### 信徒に学習の場をと

#### 鹿児島市内地区

二月三日(水)、教区本部で鹿児島市内六小教区の司祭会議が郡山司教も出席して開かれた。

会では今年の教区評議会では検討されるべき課題、「学び」の講座の具体的実施方法、市民クリスマス実行委員会の担当司祭などについて主に話し合った。

① について、四月までにはテーマと明確な工程表を作ることをコンベンツスで呼びかけることにした。

② は、聖書や教会の教え・社会問題について、年間を通して学ぶためのプログラムの実施を望む信徒の意見に配慮するものだが、鹿児島地区での実施は、二月三日に鹿児島市内の司祭で会議を開き、検討することになった。

③ は、五月二十一日(日)に家庭についての高見長崎大司教の講演を行う、六月三日はカテドラルで午後七時からミサ、午後五時からミサまでは免償を受けられるように赦しの秘跡を行うことにした。

④ について、安置場所はカテドラル、名瀬聖心、母間の巡礼指定教会。最初にカテドラルで顕示され、十二日は名瀬、十九日は母間で礼拝する。企画としては、聖遺物の前で礼拝や「いつくしみの祈りの花束」などを祈る。聖遺物での祝福はしない。安全の確保が必要とされた。

⑤ は、教区として参加費(二十万から三十五万円)の半額を支援し、青年の参加を呼びかけることにした。



に、五月二十八日(土)、二十九日(日)に鈴木神父が講座を受け持つ。

各司祭が受け持つテーマは三月中に決まり、お知らせする予定。

市民クリスマス担当司祭(現在はアン神父)は、教区司祭任所録の順番で市内教会が持ち回り、担当することになった。今年も、鴨池教会の泉神父が担当する。実行委員会は、毎月最終週の火曜日に行う。第一回は、四月二十六日(火)。

### 短信

▼愛の聖母園錬成会  
児童養護施設「愛の聖母園」の高校生たちの錬成会が、二月二十日(土)教区本部で開かれた。テーマは「人間関係の大切さ」で、末吉神父が指導した。

**神学生  
司祭・助祭候補者認定式**  
3月19日(土) 15時  
鹿児島カテドラル・  
ザビエル記念聖堂

# 聖心教会聖堂修復への思いと思わぬ恵み

聖心教会 小さく貧しい祈りの集い 森 島 実 江

まず「小さく貧しい祈りの集い」を紹介いたします。この集いは、大聖年の翌年(二〇一一年)に始まり、毎月、第一と第三水曜に名瀬聖心教会聖堂で朝九時三十分から十時三十分まで祈りをささげております。一月は六日と二十日でした。祈りの意向を私が前日に決めます。一月も十九日の夜、特に必要な意向を祈り求めているなら「聖堂修復のためにたくさん祈りが必要ですよ」と導かれ、二十日はこの意向でメンバーと祈りをささげました。また自宅での晩の祈りの後、「イエスさま、聖堂修復のために個人的には何をしたらいいのでしょうか。毎日ミサには行きますけど、それ以外には何が必要ですか?」と祈っていたら、心に光が差し「わたしは、いつも待っている。氷点下の聖堂、聖櫃の中で。四十度を超す暑さの聖堂、聖櫃の中で」というメッセージの中

ヨハネ福音書の中で復活したイエス様は三度「あなたがたに平和があるように」と弟子たちに言います(20・19、21、26)。これらは生前のイエス様の「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与えらる」と「これらのことを話したのは、あなたがたがわたしによって平和を得るためである」という言葉を受けたものです(14・27、16・33)。ところが、このすぐ後でイエス様は「心を騒がせるな。おびえるな」、また「あなたがたには世で苦

ようなものが心にスーッと入って来ました。この言葉は「聖櫃でのイエスのつぶやき」の祈りの一節でした。「分かりました大好きなイエスさま、待っているのですね。それでは、ミサに行く時間を早めて聖堂に行き、イエスさまと話しなから祈りましょう」と決めました。「いつから行こうかな? イエスさま」そして一月二十五日の聖パウロの回心の日から決め、その日からミサに早めに行き、大好きなイエスさまと話しながら祈りのうちに過ぎていきます。

難がある。しかし勇気を出しなさい」と言葉が続けま(同上)。通常なら平和が与えられるのであれば不安などはないはず。それなのに、イエス様の言葉

かかり過ぎるし、ミニトマトはどうかと思いい知人に相談しましたが、ミカンコミバエで廃棄処分してないとのこと。ところが二十六日に、「イエスさま、何かないでしょうか」と心のうちに話していたら「タンカンいる?」との電話。私は驚き「イエスさま、ありがとう」と叫びました。そしてそのタンカンは三十一日のミサ後に販売されました。二十七日の夕方のことです。郵便ポストを見ると沖繩の霊的姉妹からの手紙がありました。「今朝、早朝ミサで聖心教会と霊的姉妹のために祈りました。どうか修復に向けて多くの方々から支援が得られることを願っています。少しですが私も献金します」との内容でした。そしてもう一つの小さな封筒に「聖堂修復にはたくさんのお祈りが必要ですね。私たち祈りのメンバーもお祈りいたします」とのメッセージと献金が入

は「キリストはわたしたちの平和であります」という言葉で答えてくれてあります(エフエソ2・14)。キリスト者にとつての平和とは「敵意という隔ての壁を取

っていました。私は大変驚き、感激のあまり涙のうちに「イエスさま、ありがとう」と感謝の祈りをささげ主任司祭にも話して、それをお渡ししました。聖堂修復に向けて思いがけない「タンカンと献金」の出来事は、私にとつて霊的な小さな「二つの奇跡」であり、思わぬ主からの恵みでした。私はこの二つの思わぬ恵みを通して、聖堂修復は主のみ旨と受け止め、主にすべてを委ね、聖霊の働きを願いながら進んでいきます。また主のいくしみの特別聖年にあたり、この時期に主の身体(聖堂)が修復されることは主からの恵みだと思いいました。私たちの心の痛み、醜い心、汚れた心は、赦しの秘跡によつて主から縫い合わされ修復されます。主の身体が全員参加のうちに修復されたらなんと素晴らしいことでしょうか。

弱い私たちはこうした対立や葛藤から逃れてしまいたくなるものです。この「弱さ」をご存知だからこそイエス様は「わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来る」と復活と来臨を約束してくだ

大火災に遭いながらもその度に新聖堂を三度も建設し、信仰を守り抜きました。この目に見える信仰の遺産・聖堂をどうするか。今、主に愛され、恵みに生かされている私たちには使命があると思ひます。

さつたのです(ヨハネ14・18)。私たちは洗礼を通じてキリストの体である教会に結ばれています。それゆえに、私たちは日曜日毎にミサ集い、御言葉を聞き、御聖体を頂くのです。そして、イエス様が教えてくださった平和を生きたために互いに平和の挨拶を交わします。これらこそ私たちがキリストの平和を共に生きていくための糧と云えるでしょう。

**+KABAYAN SEKSYON+**  
**Mga Landas Tungo sa Pag-asa**  
 Sa pamamagitan ng diyosesanong Caritas, pinasimulan niya ang isang popular na "mesa at kanlungan" para sa mga walang masilungan, ibinabahagi sa kanila anuman ang maaring itulong, personal na lumalakad saan mang dako para ihatid sa mga indibiduwal ang ginhawa at pagiging malapit ng Simbahan. Gayon din naman, saklaw ng kanyang planong pangpastoral na bigyan ng pinakamalaking pansin ang krisis pang-edukasyon na sadyang laganap sa Buenos Aires. Pinasimulan niya ang isang pamunuang bikaryato para sa edukasyon at ipinaliwanag niya na "ang drama ng ating panahon ay ang katotohanan na ang mga nagbibinata at nagdadalaga ay nabubuhay sa isang daigdig na mismong sa kanyang sarili ay ayaw iwan ang yugtong ito ng kanilang buhay. Lumalaki ang mga kabataan sa isang lipunang hindi umaasa ng anuman mula sa kanila, hindi sila tinuturuan magsakripisyo at magtrabaho at hindi na nakababatid ng kagandahan at katotohanan ng mga bagay. Dahil dito'y hinahamak ng mga adolescente ang kasaysayan ng nakaraan at takot silang humaharap sa kinabukasan. Nasa Simbahan ang pangunguna para muling buksan ang mga landas ng pag-asa."  
 Kaya't hiniling niya sa kanyang mga pari na puspusan ang gawing pagtatrabaho at gamitin ang kanilang imahinasyon. Sa isang panayam sa kanya ng buwanang 30 giorni nagsimula siya sa obserbasyon na ang impluwensya ng isang parokya ay umaabot lamang sa radius ng hanggang anim na raang metro; pagkaraan nito'y ikinuwento niya na may halong pagbibiro: sa Buenos Aires mayroong halos dalawang daang metro ang agwat ng mga simbahan. Kaya't sinabi ko sa mga pari: "Kung makakaupa kayo ng isang garahe at makatatagpo kayo ng mga laikong nasa tamang takbo ng isip, pumunta kayo! Maging maliit sa mga tao, magbigay kayo ng katesismo, at magbigay din kayo ng komunyong sa hihingi! Sabi sa akin ng isang pari: "Ngunit Padre, kung gagawin naming iyon hindi na papasok sa simbahan ang mga tao! "Ngunit bakit?" tanong ko, "Pumupunta ba sila para magsimba sa ngayon? "Hindi po," tugon niya. "Kaya nga...!"  
**Pagdalaw ni Papa Francisco sa Pilipinas(Fr.Dino Orolfo)**

## キツペス神父の黙想会

3月19日(土) 18時~21日(月) 16時30分

場所 マリア山荘 (霧島市溝辺町3616の4)  
 テーマ 「他者にイエズスを見る目」  
 参加費 一万五千元(宿泊代、食事代を含む)  
 申込先 福沢智子 TEL 090(2083)9223

## キリストの平和とは

### 鈴木神父のやさしい言葉

「キリストはわたしたちの平和であります」という言葉で答えてくれてあります(エフエソ2・14)。キリスト者にとつての平和とは「敵意という隔ての壁を取

## 子どもたちとともに主日の福音を『こじか』2016年度のご案内

こどもたちに福音を味わう1週間を!  
 「わかりやすい」と好評の主日の福音解説を中心に、多彩な記事で子どもたちにイエスさまのまなざしを伝える「こじか」。どこへでも1部からお届けいたします。受洗、初聖体のお祝いやお孫さんへのプレゼントとしてもご好評いただいています。

毎週日曜日発行(年44週) B5判・16頁(ふりがなつき)  
 定価65円+税(送料別) \*15部以上のご注文は55円+税  
 国内年間定期購読 1部4100円/2部7400円(税・送料込、2部の価格は同じ発送先の場合)

お申し込み、お問い合わせ、見本誌請求は下記にどうぞ  
 オリエンズ宗教研究所  
 〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5  
 電話: 03-3322-7601/Fax: 03-3325-5322  
<http://www.oriens.or.jp/>

